

令和4年度 学 校 評 価 報 告

草加市立松原小学校
(令和5年2月24日作成)

1 学校教育目標 心身ともに健康で自ら学ぶ子 ～やさしさと 笑顔でつなぐ 松原っ子～ ① 教職員が一体となって、学校教育目標の具現化に努め、新学習指導要領の理念である「生きる力」をはぐくむ教育を推進する。 ② 教職員相互の磨き合いを深め、資質と指導力の向上に努める。 ③ 「時を守り、場を淨め、礼を正す」教育を推進し、凡事徹底・常態のレベルアップに努める。 ④ 安全で落ち着きと潤いのある教育環境の維持・管理に努める。 ⑤ 地域との交流を深め、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。	
2 重点目標・努力目標 ○学習指導の充実 ・新学習指導要領の趣旨を実現する授業づくり ○学年・学級経営の充実 ・子どもたち一人一人が自分の存在感を見い出せる学級経営 ・学級経営から学年経営、学校経営への意識改革 ○心身ともに健康な体づくりの推進 ・基本的な生活習慣の確立	3 前年度の成果と課題 成果 ○SCやSSW等と連携した不登校児童への組織的対応により、遅刻や放課後登校等、登校できる児童が増えてきた。 ○幼保小中合同研修会の実施により、共通事項における指導の徹底を実現することができた。 課題 ●指導方法や指導形態の工夫・改善が必要である。教材・教具やICTの効果的な活用について研修を深めていきたい。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○各主任が中心となり、ボトムアップで立案や運営・実施を行うことができた。 ●各主任には、自分だけが動くのではなく、人材を活用する力を育成したい。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○国語科に重点をおき、自分の考えを明確にし、考えを具現化し、表現することのできる児童を育成することができた。 ●指導方法や指導形態の工夫・改善が必要である。教材・教具やICTの効果的な活用について研究を深めていきたい。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○家庭と連携して感染症防止対策を確実にを行い、感染者数の大幅な増大が見られなかった。 ○養護教諭が管理職に報告・連絡・相談を速やかに行うことにより、大きな事故やけががなかった。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○管理職や事務主幹等、複数の目で諸表簿の確認を行うことにより、正しく管理することができた。 ●学校施設の鍵の管理が杜撰であった。全教職員が危機意識を高く持ち、確実に管理できるようにする。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○学校ホームページの毎日の更新、学校運営協議会や地域ボランティアとの協働や情報交換により、教育活動への理解を得ることができた。 ●コロナ禍の影響により、外部の方をお招きすることが難しかったため、次年度に向けて少しずつ児童と共にできる活動を検討していきたい。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○オンラインを活用した連携会議等を通して、共通理解・共通認識のもと研究を進めた。読書活動推進に関して小中間で様々な交流を深めることができた。 ●幼保小間での活動がコロナ禍の影響で活発に行うことができなかった。オンラインの活用を含めて次年度に向けて検討していきたい。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月、授業時数や履修内容を確認することにより、指導計画に基づき確実に実施することができた。 ●15年間の系統性を取り入れたカリキュラムの編成と実施まで実現することが難しかった。中学校区で連携し、実現できるようにしたい。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの観点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が互いに授業を見合うことで、児童の学習内容の積み上げを確認し、計画的に指導を行うことができた。 ●授業ではICTへと流れやすい傾向が見られた。効果的な活用を考えていきたい。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の授業スタイルを確立し、評価についても共通理解を深めた。 ●全学級で児童に道徳的実践力を育成できるような授業ができるようにする。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童も教師もALTと良好な人間関係を築き、表現力を培う授業を行うことができた。 ●学級担任がさらに積極的に指導できるよう、授業準備やALTとの打合せを密にしていく。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童会を中心に、新たに本校の「インターネット・スマホのよいこのきまり」を策定した。 ○委員会活動では児童の活動の場を保障し、自己有用感を味わわせることができた。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年の指導計画に基づき、他教科と関連させながら指導を行うことができた。 ●調べ学習や、まとめたことを発表させる授業になりがちである。体験等も取り入れ、指導の内容を検討していく。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導主任を中心に、様々な児童のトラブルや問題行動に速やかに対応することができた。 ○定期的な生徒指導委員会の開催により、情報の共有や共通行動を取ることが全教職員でできた。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア・パスポートを活用し、家庭や地域と連携することにより、社会や地域への参画意識を持たせることができた。 ●地域とともにできる活動を増やしていきたい。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画をもとに、家庭と連携しながら個々の障害や課題に合わせた、きめ細やかな指導を行うことができた。 ○校内就学支援委員会を定期的に行い、就学相談・教育相談を丁寧に進めることができた。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○異学年児童による読み聞かせ、ビブリオバトル、ポップ作成、読書感想文紹介等、多様な読書活動に取り組ませることにより、学校図書館教育の充実が実現した。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○情報教育主任が講師となり教職員研修を行った。これにより全教員が授業や行事で積極的にICT機器を活用することができた。 ○情報教育主任と学級担任とのT.T指導により、全学級で情報モラルの指導を行い、児童のSNS等のトラブルを未然に防ぐことができた。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○人権週間を設定し「人権感覚育成プログラム」を活用した指導を全学級で行った。児童の人権意識が高まった。 ●多様な教科と関連させ、各教科・領域で人権教育を取り入れた指導をしていくことができるようにする。

草加市立松原小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色 ある 学校 づくり	① 常態のレベルアップと校風を大切に する学校	<ul style="list-style-type: none"> いつでも、どこでも 元気よくあいさつ を交わし合う学校 歌声の響き合う学 校 俳句作りにより、自 然や人との関りを 実感することので きる学校 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童会が主体となり、年間を通してあいさつ運動を実 施し、あいさつの大切さが定着している。 ○感染防止の観点から、マスク着用の上、少しずつ小 声で歌声を響かせることができるようになった。 ○毎月児童の俳句を学校だよりで紹介し、昇降口前に掲 示することにより、児童が自然や季節を感じ、言葉で 表現することができるようになった。 ●明るく元気なあいさつができない児童がいるため、高 学年児童が手本となり、もっとあいさつを交わし合う ことができるよう指導をしていきたい。
	② 保護者、地域に信 頼される学校	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニテイ・スク ールの活用 ・地域交流の充実と 強化 ・学校教育活動の情 報発信 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページに日々の児童の活動の様子や 給食のコメント等をアップすることにより、閲 覧数が向上した。 ●次年度はもっと地域の方との交流が実現できる 活動内容や活動方法を検討していく。
	③ 学力・体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学力・学習状況調査 の結果分析による 学習指導の充実 ・感染対策を講じた 体力向上の実現 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学力の伸長を実現した教員の指導技術を広め、 指導法を改善し、学力を向上させることができ た。 ○「すこやかタイム」の活用や校庭遊びを推奨す ることにより、意欲的に体力作りに励む児童が 見られるようになった。 ●学力については学年・学級や教科によって結果 に偏りが見られるため、全学年・学級でどの教 科でも学力を伸ばせるよう、指導力向上につい て研鑽していきたい。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・児童一人一人を大切にし、個別最適な学習を目指した授業改善に取り組んだ。これらの成果として児童の自己肯定感を高め、学力向上に繋げることができた。これらの取組を保護者にもご理解いただき、保護者アンケートによる結果は、満足度97.5%であった。
- ・思考力・判断力・表現力の向上を目指し「草加っ子の学びを深める授業の5か条」を基に校内研修に取り組んだ。互いに授業を見合うことにより、学校全体で指導方法を見直し、改善することができた。その結果、各学習調査において、各学年・学級で学力に伸びが見られる児童が増えた。
- ・学校運営協議会において学校経営方針をご理解いただき、授業や児童の様子を見ていただくことにより、様々な学校教育活動への支援と協力を得るための協議ができた。

6 次年度の改善策

- ・全教職員が「凡事徹底」を率先垂範し、学校施設・設備の管理を確実に行う。
- ・効果的なICTの活用を検討し、各教科において児童の理解を深めたり、知識を広めたりするためのツールとして利用できるように校内研修を充実させていく。
- ・道徳科や特別活動、人権教育など横断的な教育活動を計画的に実施し、積極的な生徒指導を充実させ、不登校やいじめ認知度の皆無を目指す。
- ・栄中学校区の幼保小中を一貫した教育を推進し、幼保小連絡会の実施と連携、中学校と連携したキャリア教育の充実、さらに地域との連携を深めていく。